

救急医学の
ルネサンス

われわれは、知を尊ぶ、
しかし、溺れることなしに

会期：平成23年10月18日(火)～20日(木)

会場：新宿(京王プラザホテル 他)

会長：行岡哲男 [東京医科大学救急医学講座主任教授]

<http://jaam39.umin.jp/>

第 39 回

日本救急医学会総会・学術集会が
10月18日(火)～20日(木)に新宿
(京王プラザホテル 他)にて開催
されます。

当院からは、血管外科 今井 崇裕
先生が学術発表をいたしますので
ご紹介します。

「当院における慢性透析患者の救急医療の検討」

今井崇裕¹ 齊藤精久² 青木昭美³ 武井誠² 吉岡伸夫² 高比康臣²

1 西の京病院 血管外科

2 西の京病院 内科

3 西の京病院 透析センター

要旨

【目的】当院は維持透析患者を 300 名以上抱える奈良県内で最大の透析施設である。奈良市内は当院も含め二次救急の輪番制をとっているが、当院の維持透析患者の救急対応は全て当院で対応している。今回、当院における慢性透析患者の救急医療の実際について検討した。

【対象および方法】2010 年 1 月から 12 月の 1 年間で当院に救急入院となった患者 53 例(男性 37 例、女性 16 例、平均年齢 68.7 歳)、のべ 88 例を対象とした。調査項目は年齢、性別、主訴、病名、入院期間、転帰、緊急透析の有無、緊急手術の有無、2 回以上の入院の有無とした。

【結果】主訴は発熱 15 例(17.0%)、全身倦怠感 10 例(11.4%)、呼吸苦 10 例(11.4%)、胸痛 9 例(10.2%)、その他 44 例(50.0%)であった。病名は肺炎 11 例(12.5%)、うつ血性心不全 10 例(11.3%)、外傷による骨折や打撲 10 例(11.3%)、虚血性心疾患 9 例(10.2%)、脳血管疾患 8 例(9.0%)、その他 40 例(45.7%)であった。平均入院期間は 24.6 日。転帰は、軽快退院 78 例(88.6%)、自己退院 1 例(1.1%)、他医転送 5 例(5.6%)、死亡 4 例(4.5%)であった。88 例中で緊急透析を要した例は 13 例(14.7%)で、緊急手術を要した例は 6 例(6.8%)、一年間で 2 回以上の入院を要した例は 35 例(39.8%)であった。

【考察】維持透析患者の緊急入院例では、うつ血性心不全による緊急透析を意識しがちだが、緊急透析を要した例は 13 件(14.7%)であった。

【結語】当院における過去 1 年間の慢性透析患者の救急医療の検討を行った。とくに慢性腎不全による透析施行症例では訴えが多岐に渡り、その重症度も高いと思われ幅広く診療することが重要であると考えられた。